

小吹 みう 商学部 国際ビジネス学科 4年

茨城県私立霞ヶ浦高等学校出身
2021.4 拓殖大学入学
2024.8 交換留学（韓国）参加



私の教室があった本館

私の大学生生活最後挑戦 韓国交換留学

【4年後期に留学するということ】

私は大学入学当初から海外留学に興味があったが、コロナウイルスの影響や経済的な理由によりなかなか機会がなかった。しかし幸運なことに2023年冬に大邱大学の短期研修に参加することができ、さらに本格的に学び向上させたいと考え今回の参加を決意した。大学4年ということもあり、前回の研修が終わってからは卒業必要単位や就職活動、出願に必要な資格の取得など計画的に行動した。早い段階から行動しておいたおかげで、3年が終わる頃には全てを達成して、留学準備を集中することができた。留学生活で会った留学生には高校生や休学、休職して来た方など、さまざまな年代の人がいたため、留学に絶対に最適なタイミングはなく、いつでも行くことができるということに気づいた。しかし、早めに行動を起こしたほうが、将来の選択肢が広がるため、思い立ったらすぐに準備を始めると良いと考える。私は今回の留学を通して、韓国語力だけではなく、授業や中国人ルームメイトのおかげで英語と中国語も上達することができた。また、自分のことは全て自分で行わなくてはならないため、社会人になる前に自立でき、今回の留学はとても良い機会となった。

【日常生活について】

韓国語を学ぶ語学堂の授業は9時半から13時20分まであった。また木曜日は学部の授業を15時から16時50分まで受けていた。授業が終わってからは、学生食堂で昼食をとり、寮に帰って予習や復習を行っていた。健康や節約のために、スーパー等で購入した野菜を使って自炊することも心がけていた。休日は仲良くなった留学生や韓国学生と買い物や旅行をしに出かけた。普段は節約



4級のクラスメイト

をしながら生活しているが、旅行に行く際は経験や思い出を増やすためにお金を費やした。旅行先は釜山やソウルなど有名な大都市だけでなく、日本にいたらなかなか行こうと思いつかない地域にも行った。韓国でも地域によって文化や人の特徴の差異を見ることができ、とても興味深かった。私はさまざまな集まりやイベントに参加し、そこでたくさんの人と仲良くなることができたため、語学力を向上させながら留学生生活を充実させるためには、積極的に行動することが大切であると感じた。

【研修を通して得たこと、その成果を今後の

学生生活や社会へどのように還元するか、について】

今回の留学を通して得たことは、留学で大切なことはどの国や学校に行くかではなく、その環境で自分がどれだけ機会を見つけられて行動できるかということである。私は大学の第二外国語で中国語を履修していて、韓国語は独学で学んできた。その過程で、韓国語を学んで、韓国に行って何の役に立つのかという言葉は何度か言われたことがあった。しかし、私は韓国語を勉強し続けてきて、今回韓国に留学をしたことで、韓国人だけではなくさまざまな国籍の方と出会うことができた。さらに、学部の授業では韓国の文化に関する授業を英語で受けることができ、中国の留学生のルームメイトのおかげで、第二外国語として学んできた中国語もさらに身につけることができた。さまざまな方の支えのおかげで、多くの機会を手にし、充実した留学生生活を送ることができた。お世話になった方々に感謝の気持ちを忘れずに、春からの社会人生活でも小さな機会を見逃さないように行動していきたいと考える。



修了式の写真